

岐阜農林事務所の普及活動状況 令和5年2月28日現在

今月の重点活動

■管内農業者等 岐阜地域「明日の農業考えるセミナー」開催

岐阜農林事務所及び岐阜地域農業改良普及事業推進協議会の主催で、2月13日に岐阜県シンクタンク庁舎5階大会議室において令和4年度岐阜地域「明日の農業を考えるセミナー」を開催した。

当日は、農業者や担い手リーダー、岐阜就農応援隊等関係機関職員を含めて55名の出席者があった。

農林事務所から「新規就農者の確保と定着支援」と題した活動の成果発表と、農作業安全について情報提供を行った他、税理士法人成和の渡邊税理士を講師に迎え、インボイス制度に農業者としてどう向き合っていくか、分かりやすく説明いただいた。

その他、JAぎふ職員による活動事例発表と、岐阜県農業共済組合による収入保険制度についての情報提供も行われた。

(地域支援第一係・山田 和彦)



【発表風景】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■岐阜県立岐阜農林高等学校生徒 農業者による出前講座実施

岐阜県立岐阜農林高等学校において、「農業の現場を学ぶ出前講座」が2月2日に開催され、流通科学科2年生32名が参加した。

当日は、羽島市で水稻を生産する青年農業士と、瑞穂市の柿生産者が講師を務め、それぞれ「若いチカラで地域の農地を守る」、「人も、地域も、そして自分も喜ぶ最高の仕事・農業」という演題で、自己の農業経営や社会人から農業へ参入した経緯、農業への思いなどについて語られた。

講義についての生徒へのアンケートで、農業に「とても魅力を感じる」、「やや魅力を感じる」と答えた生徒が講義前57%から講義後94%となり、農業の魅力を生徒へ伝えることができたと思われる。

農林事務所からは、将来の進路先の一つとして、岐阜県農業大学校、岐阜県立国際園芸アカデミーを生徒へ紹介した。

農業の魅力を農林高校生に伝えるため、次年度も継続して実施することとしている。

(地域支援第一係・山田 和彦)



【講義風景】

■有機農業実践者 第12回JAぎふ有機農業実践塾開催

2月11日に「JAぎふ有機農業実践塾」が開催され、受講者10組の参加があった。この塾は、有機栽培野菜の直売出荷者を増やすことを目的に、JAぎふ地消地産推進室が企画運営を、株式会社JAぎふはっぴいまるけが見本園の管理と運営支援を、そして岐阜農林事務所が塾の講師を担当している。

これまでのまとめとして、農林事務所から雑草や病害虫は予防技術の実践が大切であること、施肥は成分や肥効が不明または不安定な動植物由来の資材を用いるため、土壌診断を定期的に行うなど、科学的に実践するべきと説明した。

また、衛生管理とGAPについても講義し、有機農業では衛生管理上のリスクが大きく、慣行栽培以上に対策が必要なことなどを説明し、受講者それぞれのほ場管理計画を基に、よい点と悪



【実践塾研修会の様子】

い点を解説しつつ具体的な改善対策の提案を行った。

ほ場研修では、ハウレンソウを例に、トンネル被覆により栽培期間の短縮だけでなく、降雨による泥はね軽減効果があることなどを説明した。

(園芸産地支援第一係・砂川 匡)

■いちご 農業次世代人材投資資金受給者の現地巡回指導

農業次世代人材投資資金を受給しているいちご新規就農者の就農状況や目標達成状況などについての聞き取り・助言指導を行うため、2月14日、農林事務所と関係機関とで、岐阜市内の2件の生産者を訪問した。

両名とも取組み状況、栽培管理状況等、当初の計画は概ね達成できており、収益向上のための効率化、コスト低減について創意工夫を確認できた。一方で、スケジュール管理や雇用の確保、燃油高騰対策等の課題もあることも確認された。

今後も農林事務所では、新規就農者の早期定着を支援するため、関係機関で課題を共有し、経営安定に向けた支援を行っていく。

(園芸産地支援第二係・若原 浩司)



【現地での確認状況】

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■GAP実践者 ぎふ清流GAP農場評価支援

山梨市の農業法人のぎふ清流GAP農場評価が2月24日に実施され、ぎふ清流GAP推進センター評価員と法人役員での質疑応答や関係書類のチェック、現地確認などが行われた。これに先立ち農林事務所では、法人に対して評価方法の説明や内部評価への指導、必要書類の整備などの事前準備を支援するとともに、農場評価に立会した。

当日は、栽培技術や作業安全、生産資材の保管方法、収穫物の衛生管理など多岐に渡り現状の確認が行われた。このため農場評価には5時間以上を要したが、客観的な視点から農場内に潜むリスクや問題点を洗い出す事ができ、有意義な評価となった。今後も農林事務所ではGAP手法を通じて、農業経営の改善や農作業安全、環境負荷軽減を進めていく。

(地域支援第三係・松本 政行)



【農場評価の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■ブドウ ぶどう新品種における意見交換会

長良果樹振興会ぶどう部会では、個々の技術で栽培を行ってきたが、新品種を導入して、それを起爆剤に部会員同士の情報共有と技術研鑽を図ろうと、部会員6名と農林事務所及びJAぎふの職員が参加し、2月8日に「ぶどう新品種における意見交換会」が開催された。

今回の意見交換会では、今後導入するための試作品種について検討され、岐阜農林事務所から、試作候補品種の特性を説明するなど、試作品種選定を支援した。今後、選定した品種の特性を確認し、導入品種を決定していく。

(園芸産地支援第二係・瀧 孝文)



【意見交換会】